

# 令和7年度島根県原子力防災訓練に参加して

公益社団法人日本診療放射線技師会  
統括専門職 江田 哲男

## —行政・専門職・住民が一体となった「地域力」を肌で感じた一日—

令和7年11月9日（日）、冷たい雨が降る早朝。島根県出雲市佐田行政センターにて島根県原子力防災訓練が開催されました。

一般社団法人島根県診療放射線技師会からのご依頼を受け、日本診療放射線技師会として私も現地に参加いたしました。

会場に到着すると、雨の中にもかかわらず多くの職員や関係者がすでに準備に取りかかっており、測定器の点検、テントや導線の最終確認、各担当者同士の打ち合わせなどが黙々と進められていました。その雰囲気から、この地域の訓練が単なる形式ではなく、本当に「地域の命を守るための時間」なのだという重みが伝わってきました。

## ■ “本番”を想定した緊張感ある訓練の流れ

今回の訓練は、原子力災害発生時に住民や車両が避難ルートを通る状況を再現したもので、実際の対応に限りなく近い手順で行われました。

まず模擬車両が検査会場に入り、車両に付着した放射線量が測定されます。基準値以下であればその場で「済証」が交付され、車両は退場します。一方、基準値を超えている場合は車両の除染が行われ、その後、乗車している住民の測定に移ります。乗員の測定でも基準値を超えた場合には、その場で除染が実施され、再度測定を行い、基準値以下を確認したうえで済証が交付され退場となります。

これら一連の流れを、乗用車だけでなく大型バスでも実際に繰り返し行っていました。特に避難バスには多数の地域住民が乗車し、広島県まで実際に移動する訓練に参加していたと聞き、まさに「実働訓練」と呼ぶにふさわしい内容であることに驚かされました。

5 出雲市佐田行政センター【R7年度原子力防災訓練（避難退場時検査）】

別紙3



## ■ 自治体だけではない、幅広い参加団体による総合力

私がこれまで見てきた自治体の防災訓練は、市区町村職員と消防関係者が中心のものが多く、比較的コンパクトな体制で実施されるものでした。しかし今回の島根県の訓練は、まったく別次元の広がりを持っていました。

会場には、島根県庁職員をはじめ、地域警察署、中国電力、千代田テクノル、消防関係者、さらには地域住民ボランティアが同じ現場に立ち、互いに役割を理解しながら動いていました。警察官は雨の中で車両誘導を行い、千代田テクノルのスタッフは使用する測定器の点検と調整をテキパキと実施し、中国電力と県職員は簡易測定所の設営や測定者の導線管理、線量測定を黙々とこなしていました。そして、島根県技師会の矢田先生は県職員や参加住民へとても分かりやすく、そして優しく放射能測定についてレクチャーをされていました。

どの組織も「自分の担当は自分が責任を持つ」という姿勢が徹底されており、連携の質の高さと、経験を重ねてきた地域ならではの強さを感じました。参加している住民の方々も非常に協力的で、単に説明を聞くのではなく、実際の災害時を想定した動作を理解しながら参加されている様子が印象的でした。



## ■ この地域の訓練は“意味のある場所”で行われている

原子力発電所の災害が発生した場合、PAZ（発電所5km圏）やUPZ（30km圏）の住民は、広島・岡山・鳥取方面へ広域避難することになります。このとき、他県への放射性物質の拡散を防ぐため、主要道路上には必ず測定・除染ポイントが設置されます。今回訓練が実施された佐田行政センター周辺は、まさにその想定地点のひとつであり、訓練が“実際に機能する場所”で行われていることを理解できました。

また、古川会長がお住まいの地域で使用されている災害マニュアルも見せていただきましたが、図や表が多く、非常にわかりやすい内容で、地域全体で避難方法やルートを共有できる工夫が施されていました。住民全員が細部まで読むのは難しいにしても、日頃から広報誌や地域活動を通して情報提供がされているため、多くの住民が大まかな避難経路や対応手順を把握しているという点も、島根県の防災力の高さを感じるところでした。

## ■ 県知事が現地を訪れたことの意味

訓練の最中、島根県知事が現場に視察に来られ、各部署を丁寧に見て回られていたことも強く記憶に残っています。

知事は担当者一人ひとりに労いの言葉をかけられ、その中で古川会長とも笑顔で挨拶と意見交換をされていました。自治体のトップがここまで現場に寄り添い、実際の訓練を深く理解しようとする姿勢は、地域防災の成熟度の高さを象徴していると感じました。東京都で活動する私にとって、都知事とこれほど近い距離で関わる場面はまずありません。島根県において行政と技師会が深く連携し、互いに信頼関係を築いていることを目の当たりにし、地域の強さとは「日頃からの関係性」によって生まれるのだと実感しました。



## 一 専門職として感じた責任と、地域が持つ本当の力一

今回の訓練を通して強く感じたのは、行政・専門職・事業者・住民が「それぞれの力を持ち寄ること」が地域の安全を支えているということです。誰か一人が突出して頑張るのではなく、全員が自分の役割を理解し、確実に遂行することで、災害時の混乱は最小限に抑えられます。今回の島根県の防災訓練は、まさにその姿を体現したものでした。

この経験で得た学びを胸に、私自身も診療放射線技師として、災害対応力と専門性の向上に努め、地域医療・防災に貢献できるよう、これからも努力を続けていきたいと思えます。

最後に、土地勘のない私が会場で迷わないよう、早くから会場にお越しいただきお待ちくださった古川会長と事前に何度もメールでご指導くださった矢田先生に、心より御礼申し上げます。また、訓練は雨天のため途中で中止となりましたが、限られた時間の中で多くの貴重な情報をお教えいただきましたことを深く感謝申し上げます。

